

気象庁の1か月予報では、沖縄・奄美以外の日本国中高い気温が続くとのこと。わかっていながらも聞きたくなかった情報。暑さ対策は万全に。現在会員登録数2,677人さま。次号は8月21日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 95

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

●「おはなしモノレール」参加者募集

大阪高速鉄道「万博記念公園駅」から「彩都西駅」まで、貸切モノレールに乗って、車内で絵本や「おはなし」を楽しみ、彩都の会場では「人形劇」を観ていただくお子様向けのイベントです。

5歳から小学校3年生までのお子様と保護者の方、あわせて240人を募集します。9月22日（土）で、参加費は、お一人500円（大人・子ども同額）

です。申込締切は9月10日（月）必着。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html#300922

●「第35回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（水）です。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第32号の原稿を募集しています。お申し込み、詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

◇「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要 第31号」を販売しています。

発行：当財団 2018年3月 A5判128頁 1400円＋税

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充

てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。
お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

【2】コラム

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『地図を広げて』 岩瀬成子/著 偕成社 2018年7月

対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：中学1年生の鈴は父と二人暮らしだったが、父と4年前に離婚して弟圭と住んでいた母が急死したため、3人暮らしを始める。鈴は圭が毎週のようにおばあちゃんの家に行きたがることや、市街地図を買ってもらって毎日、帰宅後に自転車で出かけることに不安を感じる。また、中学校の「文芸同好会」に入部したり、ユニークな月田と友だちになったりしながら、死んだ母のことについて考え続ける。

T：不思議な作品でした。印象に残った場面がたくさんあるのに、読み終わってから探そうとしたら、見つからない。

Y：それってしっかりしたストーリーラインで読ませるのではなく、鈴の意識を追う展開で時間が前後したり、空間が移動したりするせいではないでしょうか。

T：そうかもしれない。鈴の経験したことと、考えや、思い出などが打ち重なっていく作りになっていることがこの作品の特徴だと思います。たとえば、「どうして人生の最初って苛酷なんだろうね」(p.208)という月田の言葉があるんだけど、どの場面だったかすぐに見つけられませんでした。

Y：鈴の日々の感覚を丁寧な言葉で掬い取っていくような書きぶりがとてもおもしろかったです。それは時に違和感だったり、学校の傘立てにずっと残っている4本の傘という視覚的な風景だったり、雨に濡れた時の感覚だったりして、その選択に鈴の気持ちのありようが表現されていると思いました。

T：4年ぶりに圭の頭の形を見て鈴が懐かしいと思う感覚も何度も出てきて、圭が「渡る」ことに象徴的な意味がある川もそうですね。

Y：『地図を広げて』というタイトルは、なぜ、圭が地図を買って欲しがったのかという作品の謎解きの要素でもあり、圭や鈴が心の中に自分自身の生活や家族関係の見取り図(=地図)を作っていく行為とも言えます。

T：圭は4年前に住んでいたところに行った場所を自転車で訪ね、行った経路を地図に赤線で記しますが、それは、小学3年生の圭が4年前の時間を確かめ直すこととすることができます。そして、ショッピングモールから帰宅した圭が絵本『ウォーリーをさがせ!』のように、自分は覚えていなくても自分のことを知っている人が見つけてくれることを期待しているところからもそのことは読み取れます。

Y：圭と鈴以外の登場人物も人間臭さが光っています。

T：父の高校の同級生の卷子さんや、母の友だちの野元さんなど、血のつながっていない大人たちが重要な役割を果たしている点も地図を「広げて」いくことで生きていけるというメッセージとも読み取れると思いました。

Y：簡単に分かり合えるなどという「ウソ」を書かずに、時間を共有すること、躊躇しながらも会話をかわしていくことでつながりが生まれるという書き方に深く共感した作品でした。

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第35回「双子の星」

不安を呼び起こすもの

今回は、「銀河鉄道の夜」（当メルマガ NO. 90-94）とも関連が深いとされる「双子の星」を取り上げます。

〈天の川の西の岸にすぎなの胞子ほどの小さな二つの星が見えます。あれはチュンセ童子とポウセ童子という双子のお星さまの住んでいる小さな水精のお宮です。（中略）

夜は二人とも、きつとお宮に帰って、きちんと座り、空の星めぐりの歌に合わせて、一晚銀笛を吹くのです。それがこの双子のお星様の役目でした。〉

以上が書き出しです。

このあと、双子の童子は大鳥と蠅（ともに星）の喧嘩に巻き込まれたり、乱暴者の箒星に騙されて海の底に沈んだりします。しかし窮地のたびに王様に救われ、自らの役目を無事に果たすという物語です。

銀河（星の世界）を舞台としていること、チュンセとポーセという名前がのちに作品「手紙 四」に表れる（兄・賢治と妹・トシとの関係が隠喩される）こと、これはやがてジョバンニとカンパネルラの関係に映し出されていくこと。こうしたことから、本作は「銀河鉄道の夜」に至る先駆的作品であり、いわば原型ともいえます。

実際、賢治は創作史上、最も初期（大正7年頃）に書かれたと推定されている本作を、晩年の未完の大作（銀河鉄道の夜）に部分的に組み込んでいます。その意味で、両作の深い関係を感じるとともに、賢治童話の底部に流れる重要な主題、すなわち信仰や救済、自己犠牲といったテーマが含まれているといえます。

本作の舞台は天上の楽園ともいえる世界であり、そこでは王の支配のもと、極めて純粋な双子の童子たちの高潔な振る舞いが強調して描かれます。しかし、作品の前半・後半それぞれにおいて、異端者によって楽園の安定は乱され、童子たちに災難が降りかかり、安定を脅かす不安な兆しが垣間見えます。

この、不安を呼び起こすものの正体は何なのでしょう。羽鳥徹哉は、本作

の成立に妹トシの看病体験があるとの見解を示しています（『『双子の星』絶対的希求の構造』1982年）。死を意識した不安な闘病生活が、楽園に及ぼした不安の元凶なののでしょうか。そうであるならば、本作から「手紙 四」、そして「銀河鉄道の夜」へ向かう道筋に、今更ながら賢治の妹への思いを感じずにはいられません。（ペ吉）

（本文の引用は、新潮文庫版『新編 銀河鉄道の夜』によりました。）

《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 95

その11 さまざまなご質問にお答えします（13）ボランティアグループを探す

質問：おはなしボランティアの活動に参加したいのですが、どうやって一緒に活動する仲間を見つければいいですか。

まずは、地域の図書館に行ってください。多くの市町村が子ども読書活動の推進に取り組んでおり、その一環として、市町村内の子どもの読書活動にかかわるグループを把握し、ネットワーク化が図られています。

それぞれのグループがどこでどんな活動をしているかを教えてください（一覧になっていることもあります）連絡して見学し、参加するグループを決めることができます。研修プログラムを用意していて、その研修に参加すればボランティア活動に参加できるという図書館もあります。

家庭文庫や地域文庫活動が母体となって、図書館や学校などでおはなし会をするグループもあれば、図書館が募集してボランティアグループが作られていることもあり、また、学校等のPTAが母体になってグループができているところもあります。母体によって子どもや本に対する考え方が違うこともあるので、あせらずに決めた方がいいと思います。

そして、どうしても自分に合うと思われるグループがなければ、グループを立ち上げるという選択肢もあります。これはかなりエネルギーが必要ですが、一緒に研修を受けた人たちと自分たちのめざす活動を行おうと新しいグループを作った事例を見たこともあります。

* 次号は「その11 さまざまなご質問にお答えします（14）」の予定です。
ぜひ、ご質問やご意見をお待ちしております。（Y）

《4》 行って来ました！

伊丹市立美術館で7月29日まで開催されている巡回展「シンプルな正体 ディック・ブルーナのデザイン展」に行ってきました。

ブルーナが表紙をデザインした200冊以上のペーパーバック、デザイン原画やスケッチ、ミッフィーやボリスなどの絵本原画に、ポスターの複製などを加えた約500点が、「ペーパーバックとポスター」「絵本」の2章に大きく分

けて、色、線、形などの表現の特徴ごとに解説をつけて展示されています。また、「シンプルな明日」というテーマで、ブルーナ作品からインスピレーションを受けて作られた、日本で活躍する気鋭の4組のデザイナーの作品が展示されています。

ブルーナは家業の出版社のデザイナーとして、推理小説を中心とするペーパーバックの表紙を約20年で2千冊以上もデザインしました。ストーリーを読み込んで描かれた表紙は、作品世界が凝縮されている感じです。シムノン作「メグレ警部」シリーズなら必ずパイプが描かれていたり、同著者の『私の裁判官宛の手紙』なら封筒のデザインだったり、読む気をそそられました。駅や書店に貼られるポスターなども手がけましたが、いずれも「短時間で見る人の心をとらえること」を心がけていたそうです。

絵本の章ではブルーナがアトリエで絵を描く姿がビデオで流れていました。細かい点を重ねて線が生まれてくる様子は魂が込められているように感じました。展示の最後に、ブルーナの遺作となる未発表の絵本「クマくんがしんだ」に邦訳がつけられていました。ペーパーバックのシリーズキャラクターとして作られた「ブラック・ベア」の死を悼む絵本で、ブルーナが亡くなったことを実感しました。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 児童文学講演会ーすべての子どもに本のよろこびをー

日 時：7月22日（日）午後1時20分から4時30分

会 場：ドーンセンター 5階セミナー室（大阪府中央区大手前）

講 師：吉富 文（イタリア語講師、翻訳家）

内 容：第1部 講演会「『チポリーノの冒険』とその周辺」

第2部 2018年度育てる会総会

第3部 対談「イタリアの児童文学はおもしろい」

吉富 文×土居安子（当財団 総括専門員）

参加費：有料 申込み：要（当日参加可）

主 催：大阪国際児童文学館を育てる会

後 援：大阪国際児童文学振興財団／大阪府子ども文庫連絡会

● 夢かうつつか、妖怪か！？ 富安陽子の世界

期 間：7月14日（土）から9月17日（月・祝）まで

場 所：鎌倉文学館

時 間：午前9時～午後5時

休館日：月曜日（7/16、8/20、9/17は開館）

料 金：有料

<関連イベント>

8月25日（土） 午後2時～3時半

講演会「富安陽子の世界」

講師：富安陽子（児童文学作家） 申込み：要、定員150人、大人向け

主 催：鎌倉文学館指定管理者 鎌倉市芸術文化振興財団・国際ビルサービス
共同事業体

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『地図を広げて』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.95プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は8月10日(金)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

7月から「編集長」の大役を仰せつかり、かつて当財団と関わっていた頃をなつかしく思い出しつつも、いささかの緊張は隠せません。

児童文学が我々大人にとっても、初めて知ることの驚きや喜びを感じさせてくれることに気づいたこの数週間でした。これからもみなさまと一緒にたくさんの子どもの本と向き合っていきたいと思っております。

今後ともどうぞよろしく願いたします。(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
